

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100143		
法人名	社会福祉法人 エイジハウス		
事業所名	グループホーム ひぐらし		
所在地	三重県南牟婁郡御浜町大字神木23		
自己評価作成日	平成24年8月5日	評価結果市町提出日	平成24年10月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyouvoCd=2473100143-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 8 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との交流を大切にし、利用者本位の援助に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熊野古道の穏やかな山並みにとまり豊かな田畑に囲まれ、四季の移り変わりを感じられるとともに、近隣には、天然記念物のイヌマキの木などあり、昔ながらのお付き合いのどかな雰囲気が残る空気がきれいな恵まれた環境に立地し地域と深くかかわった運営がされている。開設時の職員の名前からユニット名を、せんやん家・まさやん家と命名されたひぐらしは母体法人の特養に併設された、懐かしい雰囲気を有する佇まいの開設10年目のグループホームである。認知症介護の深い知識と豊富な経験を持ち、利用者・職員から全幅の信頼を得ている管理栄養士でもある施設長のもと全職員も理念『①ゆったりと、楽しく②自由に、ありのままに③・・・④・・・⑤・・・⑥・・・⑦適度であること』を共有し、介護経験・現場経験豊かな職員と共に実践し、利用者一人ひとりを人生の先輩として温かく支援している。屋食時『ここは良い処よ』と笑顔で話され、『私の部屋を見て！』と居室に招待して下さった利用者を見守る職員の眼差しはとても優しく、家族からも感謝の声が多く届いている。季節の花々や野菜を作ったり、サンマ寿司・梅干・紫蘇ジュース・・・作り、地域の餅まきに参加など利用者一人ひとりの希望に添った楽しみごとを工夫して支援している。利用者職員間に信頼関係が築かれている笑い声が絶えない穏やかな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の勉強会や申し送り、関わりの振り返りの時にも理念に触れ、確認し合うようにしている。	グループホームひぐらしの7項目の基本原則を各ユニット内に掲げ、常に管理者と職員は利用者の笑顔が出るような支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや歌謡ショーには利用者と共に積極的に参加しており、散歩や買い物に出掛けた時には、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしたりしている。	地域の公民館行事(祭り・歌謡ショー・防災訓練・交通安全講習・・・)に利用者に参加したり、母体法人主催の行事(夏祭り・介護教室・救命講座・・・)で子供会や近隣の方々と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修や啓発の場に職員が出掛けており、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括センター、地元の警察、老人クラブ代表などにも参加して頂き、グループホームのサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター、地元の警察、民生委員、老人クラブ、家族、職員等を構成メンバーとして、年間計画を作成し2ヶ月に1回開催している。活動報告だけではなく研修や意見交換ができるように努めている。それらをサービスの質の向上に向けて具体的に活かしている。議事録もきちんと作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者の方に対して、担当者と連絡を取り、生活していただいている。	御浜町役場主催の地域ケア会議に参加したり、母体法人本部が窓口になり、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室の鍵も含め、目に見える身体拘束は一切行っていない。また、言葉による拘束にも十分注意している。	身体的拘束や言葉の拘束の弊害を理解して拘束をおこなわないケアに取り組んでいる。玄関や居室の窓はいつもオープンにしてあり、外へ出る利用者には職員が添うように見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、常に虐待が見過ごされることがないように注意をしている。また、虐待行為を発見した場合の対応方法については、事業所で周知徹底がされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会により学ぶ機会を持っている。また、地域福祉権利擁護事業のパンフレットを事務所に設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項所に基づいて説明を行い、承諾して頂いている。また、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際についても詳しく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、推進会議に家族の方も参加して頂き、意見を頂いて反映させている。	『ポカポカだより』を作成して現状を報告し、ホームを理解してもらいながら家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。要望や意見などには、些細なことでも速やかに検討し改善する体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議等で出た職員の意見や管理者の意見・提案を普段の業務に活かしている。	職員同士とても仲が良く昼食時や休息時に常に話し合っている。リーダーは日々施設長と話し合える機会がある。月1回のグループホーム会議で出た意見や提案はリーダーから施設長に伝えて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行う勉強会や、外部研修に参加した職員の復命研修を行うことにより、多くの職員が受講できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G.H協議会により、研修会に参加している。また、スタッフ研修を受けて質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、他の利用者に紹介し、早くその場の雰囲気に溶け込めるようにしている。また、本人の訴えには納得して頂けるまで話を聞き、出来る限り要望に沿えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、サービス提供にあたり、本人の要望・家族の要望等を聞き、これからのサービスに活かしていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員は相談があったときは、出来る限り対応に応じ、他のサービスが必要な場合、「他の機関」等に相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員全員が共有している。普段から利用者にも教えてもらう場面も多く、職員の年齢層も考慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活を家族に細かく報告することにより、家族に信頼して頂けることを大切に、家族の要望を受け入れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた理髪店や美容院へ行くことを大切に、その人その人が住んできた場所を大切にしていこうと努めている。	馴染みの美容院や理髪店、紀和町の温泉、知人の新盆のお墓参りなど、これまで大切にしてきた関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間等、介助の必要な利用者には他の利用者に関わり、助け合う等、支え合いながら生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所(併設している施設)へ移られた方にも、利用者と遊びに行ったり、事業所の方にも来てもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活して頂く、基本は本人の希望を第一に、次に家族の希望を含め生活して頂いている。	利用面談時に、意向・思いをきちんと把握するように努めている。また入浴時などに、どんなことでも話して頂けるような関係づくりを心がけている。利用者の意向や思いを尊重してゆとりある暮らしの支援を行っている。	本人が自分らしく暮らし続ける為に、一人ひとりの思いを聞き取り、生まれた町や行ってみたいところ等、担当者が順番に個別に対応して支援しているが、今後すべての利用者の方々への思いに添っていただけるような支援が期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の日常の会話、家族、知人等の訪問時に、スタッフが参加し、生活の様子を聞いたり、今の生活を報告している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムで生活して頂き、残存能力を大切に、その人に応じた社会的役割をして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画はケース検討会により本人、家族の意見を主に考え、その中でサービスを組み作成し、モニタリングし、定期的に見直ししている。	利用者・家族からの意見やミーティングなどでの意見交換を基に課題を出し合っている。職員は担当制をとっており計画作成担当者として毎月話し合い、3ヶ月ごとに、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別にファイルし、身体的状況および排便等を記録し、会議等において介護計画の見直し・情報の共有に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援は職員が柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、消防・警察・公民館等、地域の資源を活用できるように、普段から連携を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人および家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。受診は職員が付き添って受診している。	希望のかかりつけ医を受診している利用者には家族と協力して担当職員が通院介助を行い、受診結果に関する情報の共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変調があれば、併設している特別養護老人ホームの看護職員に相談し、支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら、回復状況等、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人および家族の希望を簡単に聞いている。本人の状況に応じて、家族の希望を聞き、事業者側の意見を聞き対応している。	利用者の『重度化及び看取り介護に関する指針』を作成し、ひぐらしでの看取り介護の具体的支援内容を説明している。重度化する前から本人・家族と話し合い、事業所が出来ることを説明しながら、方針を共有するように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習に全職員が参加できるように努め、利用者の急変や事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の主催する防災訓練にも参加し、協力関係を築いている。	グループホーム事業計画にも記載し、年4回避難訓練を行っている。7月22日の柿原地区防災訓練に参加して、一時避難場所の確認など、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が声掛け、対応の仕方に注意しながら関わりを持っている。言葉かけについては、法人全体で赤ちゃん言葉や命令言葉を使わないようにしている。	重要書類は、その取扱いと管理を徹底している。日常生活に於いては、本人の気持ちを大切に考えて一人ひとりの人格を尊重し、さりげないケアや優しい言葉かけをするよう職員全員で心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせて入浴をしてもらったり、本人の希望により、パーマをかけたり、外食では、メニューを見て食事を決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり起きられる方には、ゆっくり起きて頂く等、生活リズムを大切にしながら、一人一人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみを整えられるよう、職員は準備をしたり、不十分なところや乱れは、さりげなく直している。また、本人の馴染の床屋や美容院に行き、希望に合わせたカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から、配膳・盛り付け・片付けを職員と一緒に頂いている。	2ユニットともにオープンキッチンである。匂いや音などで五感を刺激して食事が楽しみなものになるように工夫している。事業所に隣接した農園で収穫した季節の野菜もメニューに取り入れ、職員と同じテーブルを囲んでの楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の不足がちな人には、一定量の水分が確保できるように目標量を決め、一人一人の一日の摂取状況を把握しており、個別の栄養バランスにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いをしている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげなく声かけすることで、自尊心を傷つけず、失敗も少なくするよう努力している。尿意のない利用者は、時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、さり気ない誘導でトイレでの排泄を大切にしている。(オムツからポータブルトイレでの排泄になられた方もいる。)家族から感謝の声も届いている。(1ユニットにトイレは3ヶ所設置してある)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や乳製品を取り入れており、散歩等、体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方に対しては、言葉かけや対応の工夫等によって、一人一人に合わせた入浴支援を試みている。また、季節に応じて、菖蒲湯や温泉等も利用している。	毎日夕方4時頃から入浴できる体制である。夕食後の入浴を希望される方、汗をかいたからと1日2回入浴をされる方もいる。また地元で採れた柚子やミカンなどを入れて、入浴が楽しみなものになるように心がけて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人一人の体調や表情を見て、ゆっくりと安眠できるよう必要に応じ、雨戸を閉めたり灯りを調節したり、物音に気を配る配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、または介助し、きちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、遠足等の外出、ショッピング、地域の行事への参加等によって、楽しみを持ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物、散歩、温泉や外食、庭の手入れ、野菜作り等の外出支援を行っている。利用者の思い、希望があるときは、支援の方策を職員同士で検討し、実現に繋げている。	隣接している農園に出かけたり、季節の花見や地域の神社・公民館・外食・温泉に出かけている。外出しにくい方にはウッドデッキコーナーでの日光浴など日常的に戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、お金を持っている方がいる。外出時のお金等は、自分で払って頂けるように、お金を事前に渡す等の工夫をしている。また、特養の売店で買い物も自分で払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの手紙や電話を心待ちにしている気持ちを察し、電話をして頂けるよう家族にお願いする等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具は、季節に応じた飾りつけ・配置に心掛けている。また、みそ作りや梅干し漬けを置いて、生活感を出せるようにしている。	山百合の活けられた共有スペースは清潔な共有空間づくりを心掛けており、気になる匂いや音、光の刺激はなく、室温も適切である。畳コーナーやお気に入りのソファで寛いでいたり、ウッドデッキでリラックスして過ごされたり、利用者一人ひとりの安らぎの居場所になるように工夫している。職員の声のトーンも穏やかで適切である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれの居室で、気の合う仲間とくつろいだり、独りになりたいときは、居室で本を読んだり、休息を取られる等、それぞれ思うように過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子、その他にも使い慣れた日用品を居室に置き、畳の生活に慣れている方には、畳部屋を用意し、安心して過ごせる工夫をしている。	大きな窓のある明るい居室の扉には素敵な暖簾が飾られ、家族からも好評である。利用者一人ひとりの状況に応じた環境整備に努めている。形見の一刀彫の仏像や懐かしいラジオ、家具等が置かれた部屋はとても清潔でゆったりとしている。畳の部屋も多く有り、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人その人の能力に応じ、出来る事・出来ない事を職員が理解し、毎日の生活の中で援助している。利用者の状態に適した居住環境を整え、安全確保をし、自立への配慮をしている。		